# か　わ　ら　版 （新春 NO１7号）2020/01/01発行 年二回発行(1・7月)	下関市立大学落語研究会ＯＢ会発行 大学同窓会のご厚意により創刊号（ＮＯ１）よりすべて閲覧できます。大学 OB の皆様にもお読みいただければ幸いです。 編集長　　西川　隆喜

わがクラブ　年改まり　半世紀

繋ぎに繋ぎ　今に伝へる　　(NO 9,103)

(直訳) 市大落研は単科大学のクラブが、熊本大学、佐賀大学など総合大学の落研が廃部となっているご時世に、よくぞ繋ぎに繋いで半世紀をしのぎ、現在も活動を行っている。実にあっぱれなクラブであることよ!

はいからっと横丁(下関市内)

住吉大社(下関市内)

『謹んで新春のお慶びを申し上げます』

下関市立大学落語研究会 OB・OG、ご家族の皆々様、謹んで新春のお慶びを申し上げます。さて、昨年末のことになるが、地元の氏神様から届けられる神社庁の「神社歴」の表紙を見ていて面白いことに気づいた。それは暦に関す記載の順序で、古来より和暦、すなわち日本の初代神武天皇の即位された年から勘定し今年は皇紀2,680年と示す。次に今上(令和)天皇の即位後の年数、つまり令和2庚子(かのえね)年が示され、最後にキリスト生誕後からの年数である西紀2,020年と記載されている。西暦が世界標準となっているが、世界でも稀有な長い歴史と文化を誇る日本ならではの記載の仕方だと妙に感心した次第です。

余談ながら、世界に誇る「ゼロ戦」の通称で知られる帝国海軍の「零式艦上戦闘機」は
皇紀2,600年(西暦1,940年)に大空にはばたいた。2～3流の国民からは1流の政治家は生まれないことを肝に銘じながら、今年も1年皆さん精一杯、頑張ろうではありませんか。

（編集局）

還暦二人旅『青春18きっぷ』

還暦と言っても早くも、もう68歳になります。それなのにこんな年寄りが久しぶりに青春18きっぷ使い北海道を各駅停車で汽車の旅をすることになりました。
今回もいつものように朗志君の一本の電話から始まりました。先輩、大阪―釧路便1,990円でゲットしましたので3月に行ってきますと何気ない電話でした。
私は3月まで孫の子守りをさせて頂いているので、ええなあと思うだけでした。2、3日して嫁に、こそっとこの話をしたら、3月25日からなら行ってもいいよと許可が出ました。

根室市納沙布岬

ということで、慌てて朗志君に電話、俺も一緒に行くからと次のセールを待ち、無事1,990円でゲットしました。幸いにも北海道復興の助成金3,000円引きのホテルを網走ロイヤルホテルと釧路プリンスホテルも取る事ができ2泊で食事付きで6,200円という破格の値段で宿泊することが出来ました。

問題は関西空港が10時発という時間のため福岡空港から乗り継げる便が無いため、前日の夜小倉駅からユニバーサルスタジオ6時35分着という夜行バスで行くことにしました。ところが小倉駅でバスに乗り込んでびっくり仰天、なんと40席全部満席、ふだんなら半分くらいの人数で楽に行けるはずが、ギューギュー詰めで大阪まで行くことになりました。流石にキツイ、旅行に使う体力の半分以上使う羽目になりました。着いたときはぐったりこのまま USJ で遊んで帰ろうかとも思いましたが、いやいや朗志君が関空で待っていると折れた気持ちを奮い立たせ USJ の駅から伝家の宝刀、青春18きっぷを使い関西空港へ。無事合流して釧路への機上の人となりました。東北のまだ雪を頂いた山々の上を眼下に見下ろし無事に釧路空港に到着。

釧路はあまり雪が残っていなくて少しがっかりでしたが、たんちょう釧路空港から釧路駅へバスで移動。さーここから本格的に青春１８きっぷの旅が始まります。やってきた電車は1両編成、山陰線と同じや。ところがこの電車は比べ物にならないほど快適な電車でした。ふかふかシートのボックス席でトイレもよく掃除が行き届いていて、山陰線のしょんべん臭い列車とは大違いでした。観光8割地元2割くらいの乗客に合わせた観光列車みたいなものでした。網走駅へ向けての道中はあの広大な釧路湿原が凍っており、途中から両側が雪景色に変わってきて、望み通りの雪景色を堪能できました。そして、発車して３0分くらいして汽笛がやけにピーピーなるので、さすがにこれもサービスの一つなんだなと勝手に思っていると、突然列車が止まり運転手さんより鹿をはねましたのでしばらくお待ちくださいとのアナウンスがあり、慌てて後部の方へ行かれました。後ろの窓から見ると線路の間に確かに鹿が倒れており、何頭かの鹿が周りに見えました、

うわー何時間もここで停車するのかと案じていると、鹿のところまで行った運転手さんが戻ってきて、お待たせ致しました出発しますというので、えー、鹿は・・と思ったのですが、列車は何事もなかったかのように一路網走へ向けて走ります。謎は翌日解けました。

網走へは何度か来たことがありますが、列車で来たのは初めてでした。網走はまだ雪がありましたが、駅の周りには何にも無いところでした、仕方がなく歩いて5分のホテルへ、

少し休んでから夕食を食べ、大浴場でゆっくりと旅の疲れをとりぐっすり寝ました。

翌朝は前日チェックインのときに、朗志君が朝早くて朝食を取れないので、おにぎり弁当を作ってもらえませんかとムチャぶりをした弁当を受け取り、6時41分発の列車で釧路へ引き返します。しかし大阪のおっさんは無敵なのか、網走の人が本当に親切なのか、ムチャぶりで言ったことが現実になり、温かいおかずも沢山のおにぎり弁当を食べながら、ゆったりと流れる景色を見ながら贅沢な旅をすることが出来ました。道中で見たのはキタキツネ、エゾ鹿、丹頂鶴、鷲などの野生の動物でした。雄大な雪景色を見ながら鹿を跳ねることもなく、無事に釧路駅に到着しました。

さて、ここから第２の目的地である納沙布岬へ行くために、根室本線（花咲線）に乗り換えです。出発してしばらくして私は運転席の方へ行き前方の線路を写真に収めていました。すると急に汽笛の音が激しく鳴り出したので、なんだろうとはるか前方の線路を見ると、鹿の行列が次々と線路を横切っていました。しかもそれがどんどん近くになっていくのです、でも行列は途切れません運転手さんがブレーキを掛けるのですが、すぐには止まりません、あれよあれよと思っているうちに、すぐ目の前まで来てしまい、私の目の前でドンと衝突してしまいました。なんとこの旅行で2回目の衝突でした。少し行き過ぎてやっと列車は止まり、前回のように慌てて後方へ確認に行きます。暫くして運転手さんが戻ってきて何事も無かったかのように出発しました。そうです、この辺りでは日常茶飯事のように鹿の衝突事故があるのです。だから運転手さんは線路と車体の確認だけをし、後の処理は担当の人がするようです。途中で海の方の小高い丘の上を見ると、何十頭という鹿の群れがおり、ここは奈良公園かと思うほどでした。

その後は順調に根室駅に着きバスで納沙布岬を目指します。納沙布岬では老人二人が手を突き上げて『北方領土を返せ』と何度も大きな声で叫び（傍から見たらただのきちがいや!)、昆布を買って帰りました。釧路への帰りの列車は汽笛だけでは、鹿が逃げないので（ワンワン、ワンワン）と犬の吠える声を同時にスピカーで流していました。思わず二人で大笑いしたのですが、なんとこれが絶大なる威力を発揮して鹿がどんどん逃げて行き、一頭も接触せずに無事釧路へ到着しました。お金のかからない対処方法はかなり原始的なものでした。

夕食は釧路駅からすぐの、河の橋を挟んで両側にライトアップした素敵なお店で優雅な夕食をとり（ムード満点、爺さん二人にはもったいなくてバチが当たりそうです)、ホテルへ帰り、あくる日は大阪経由で下関へと帰りました。

今回も非常に楽しい極上の旅をすることが出来ました。一面の雪景色と広大な釧路湿原の中を一筋の線のように進む列車、ゆったりと流れる時間、そして地平線に夕日が落ちていく空を雁の群れが一列に飛んでいく姿、テレビの中で見たような光景がすぐ目の前に現れ、思わずお迎えが来たのかと錯覚してしまうほどの荘厳な景色でした。もうすぐ７０歳、あと何回このような感動に触れることが出来るのか、毎年のように倒れゆく友のことを考えながら現実の世界へと帰り着きました。

あばら家　笑司(沖井　孝志)

『第5回 OB・OG 会(創部50周年記念懇親会)のご案内』

- 日　時　　令和2年5月16日　(土曜日)　18:00～

- 場　所　　海峡ビューしものせき
  山口県下関市みもすそ川町3番58号
  ☎　083-229-0117

〈上記 OB・OG 会の趣旨〉
　日時と場所については2年前(大阪開催時)に決まっておりましたが、創部50年が地元開催と重なりました。よって、現在、落語研究会で活躍されている部員の皆さんにもお声がけをし、合同で懇親会を開催とするものです。なお、現役部員の皆さんは懇親会のみの参加とし、招待扱いとさせていただきます。ついでながら、OB・OG については従来通り一泊二日となります。

『編集後記』

　現場第一主義で人生をかけ、世界の恵まれない人々のために尽くされた2人の日本人が昨年天国に召されていった。お1人は犬養毅元総理大臣を曽祖父にもつ緒方貞子(元国連難民高等弁務官)さん、もうお1人はペシャワール会の現地代表として活動されていた中村哲(九州大学高等研究院特別主幹教授)である。「世界のために最前線に立って、汗を流した日本人」としては、たぐいまれなる方たちであった。これほどのことはできないが、残された命で、万分の一でも人のためにならねばならぬと思つたのは私一人だけであろうか。　(編集局長)